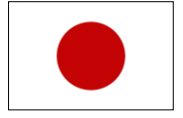




在コンゴ民主共和国大使館



プレスリリース

7月11日

7月11日（月）、日本大使館で、日本の整形外科医有志から供与されたインプラント機材贈呈式が開催され、ロコス・ンクルファ・モントンバ・コンゴ民主共和国外務・国際協力省アメリカ・アジア・大洋州局長、リュック・モカサ・バクモバタネ・コンゴ民主共和国災害整形外科学会会長他当地医療関係者、および野口修二在コンゴ民主共和国臨時代理大使が出席しました。

本インプラント機材は、三重大学国際医療支援センター、山形大学医学部整形外科、東京樺島病院および埼玉関越病院の整形外科医有志によって在東京コンゴ民主共和国大使館に送付され、医療グループ徳州会によってキンシャサまで輸送されたものです。

式典で、野口臨時代理大使は、本件供与を実現させるに至った全ての関係者の努力を賞賛した上で、機材の持続的な活用のためには、公平かつ適切な管理が必要であると述べ、モカサ医師が会長を務めるコンゴ民主共和国災害整形外科学会が、管理委員会の役割を果たすことを期待する、また、今般の供与が、日・コンゴ民主共和国間の医療従事者の人材交流等、より幅広い協力につながることを期待する旨述べました。

また、野口臨時代理大使は、JICAによる技術協力の一環で行われているキンシャサ市の保健人材センター（INPESS）や保健省への専門家の派遣、および草の根・人間の安全保障無償資金協力の枠内で、徳州会との連携で実施されているキンシャサ警察病院透析センター建設計画等について言及しつつ、保健を始めとする社会サービスへのアクセス改善は、我が国の対コンゴ民主共和国経済協力の優先分野の一つである旨述べました。

最後に、野口臨時代理大使は、コンゴ民主共和国の医療分野では、数多くの日本政府国費留学生 OB が第一線で活躍していることを喜ばしく思う旨述べ、今般供与された機材が、日・コンゴ民主共和国間の友好関係強化につながることを望む旨述べました。



